へ13
3749
22

門ヘ13
特3749
巻22

やまと文庫

四十五編

上の巻

中の巻

万亭應賀著
歌川国貞画
彩雲堂寿梓

釋迦八相倭文庫四拾五編叙

夫摩訶鄧伽の女は由來い諸經ゐ在どゞ異訳のつゞき已に摩訶鄧の女ゞのそこのつゞく其名と云ざれど茲ゆ一ノ鄧宮の童女達ゆ讀覽安かゝ志ゑんが爲也猶提婆の傳等ゐ十誦律。增一阿含經。大涅槃經。毘奈耶破僧叀。大方便報恩經。五分律。大智度論。摩訶摩耶經。出曜經。拔陀外道出たゞと比白異譚あれど經々ゆ要文を摘て予手志ゐ盛素人の白胡麻をあゞかけゝく呉音もゝゝぬ語任の護魔穢いかゝゝひ草ゆ志ゝ物とも又あゝん叙

安政七稔
庚申初春發

万亭應賀誌

毘奈耶破僧事第十八ゐ云

提婆達多語未生怨王曰我以教汝
令得王位令須建立令我作佛王語
曰佛身有金色汝身無金色何
令作佛耶復白王言我身作
金色斯亦可得即召金匠
言令我身作金色金匠
曰若能
忍
痛
即可
得作
即以熱油

△塗身
著金毒薄身
甚受辛苦
云々

摩鄧女經云
時阿難持鉢
乞食已阿難道
水邊行見一女人
在水
辺擔
水上云云

摩鄧伽の嬢ア鄧蜜
阿難を懸想す

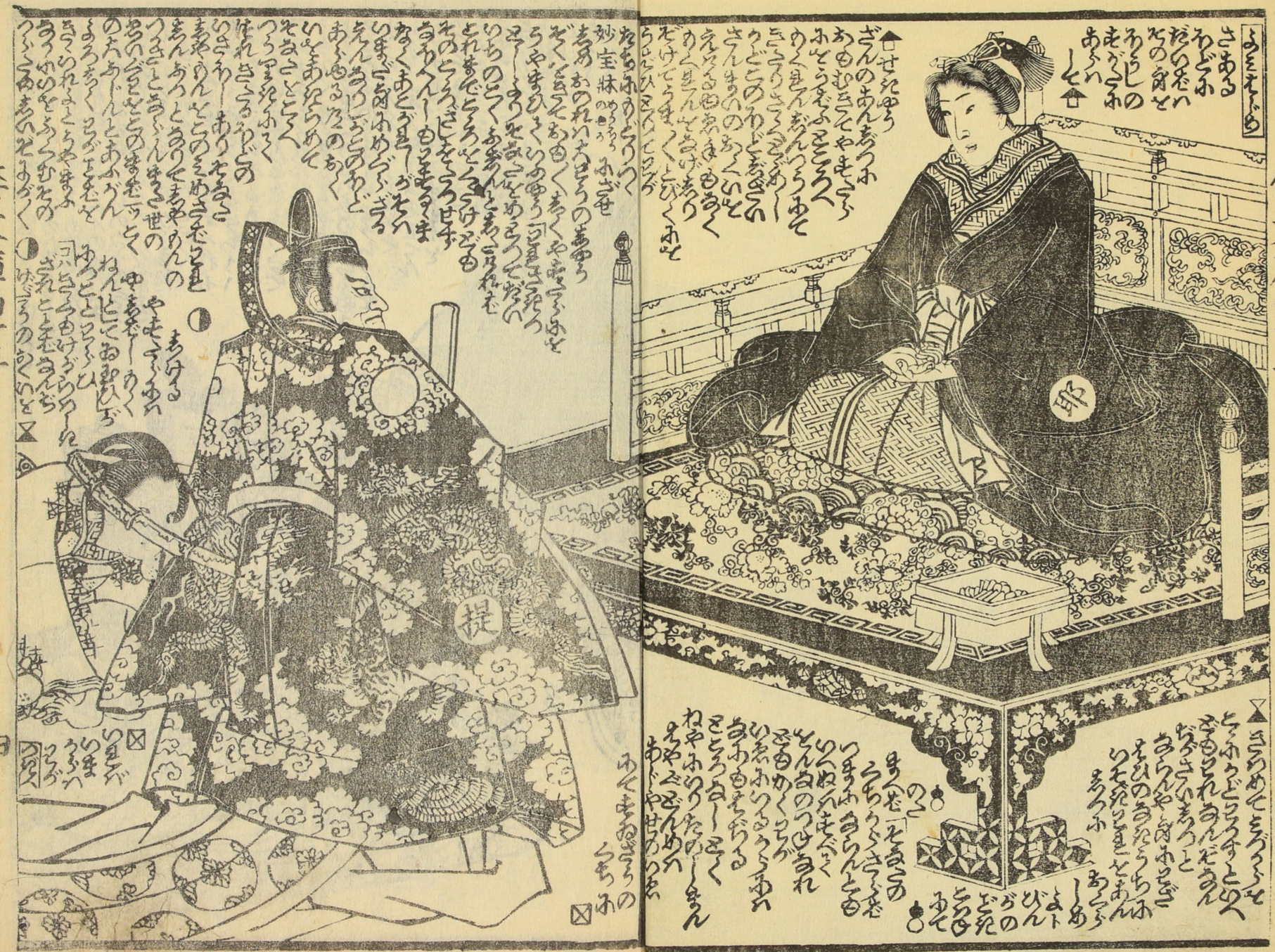
佛足縮圖

千輻輪相

魚鱗相

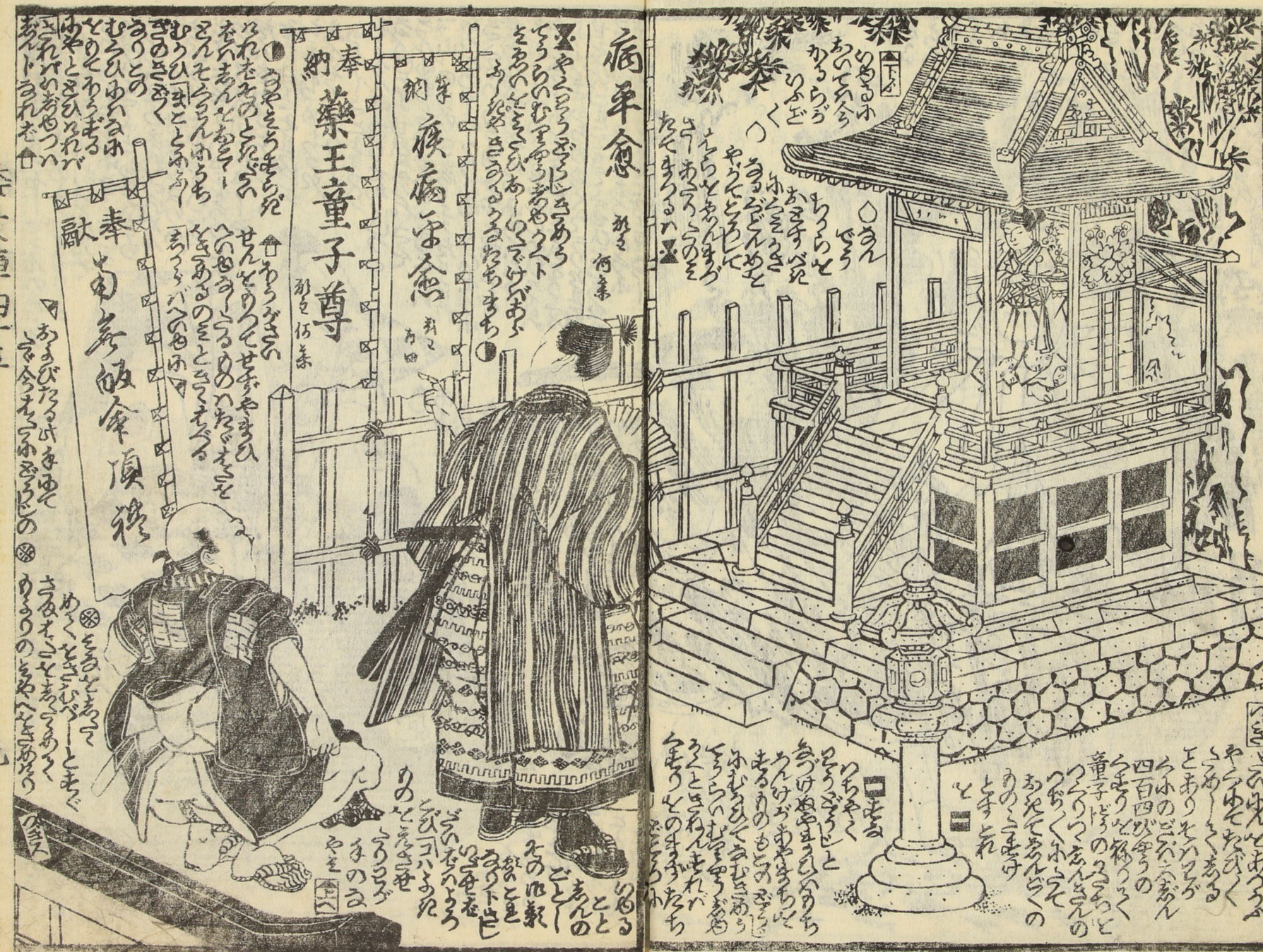
金剛杵相

梵王頂相



提
耶

提
丹


病平愈
奉納 藥王童子尊
奉納 疫病平愈
奉獻 南無破魔尊

應賀作　國貞画

回安政七年庚申春新板目録回

倭文庫　四十三編　四十四編　四十五編　四十六編　万亭應賀作　陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　八編揃　為永春水作　同

昔語小栗實説　二編　三編　松亭金水作　同

花山吹百人女郎　初編　二編　柳亭種彦作　同

浅草　みやげ　五編揃十返舎一九作　同

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　小本　表紙あり　極上ぼう

人形町　上州屋重藏版

侍文庫四拾五編

歌川國貞画

錦重堂版

下

中行基

傾城狸人

四十五篇

下之巻

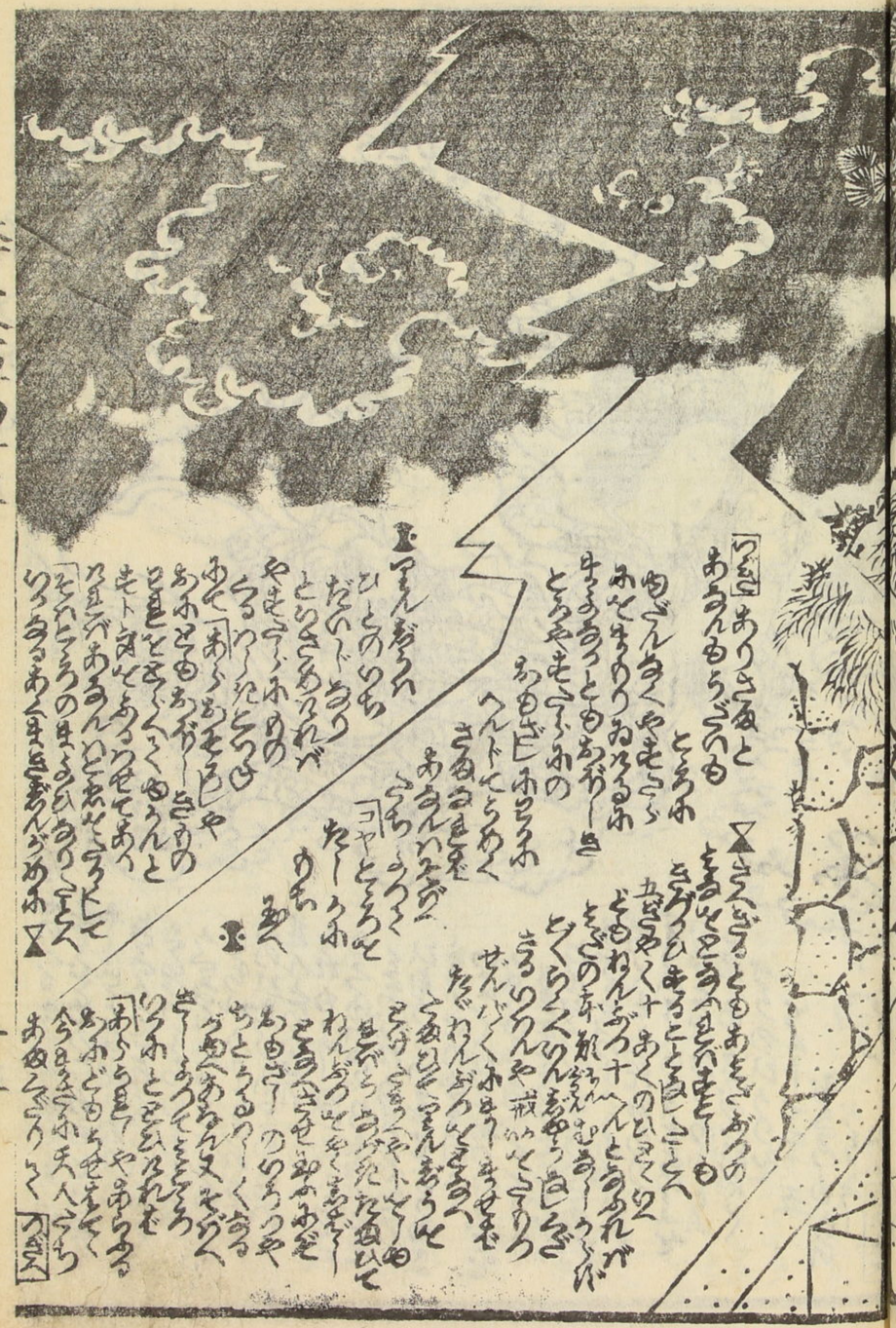
柳亭賀作

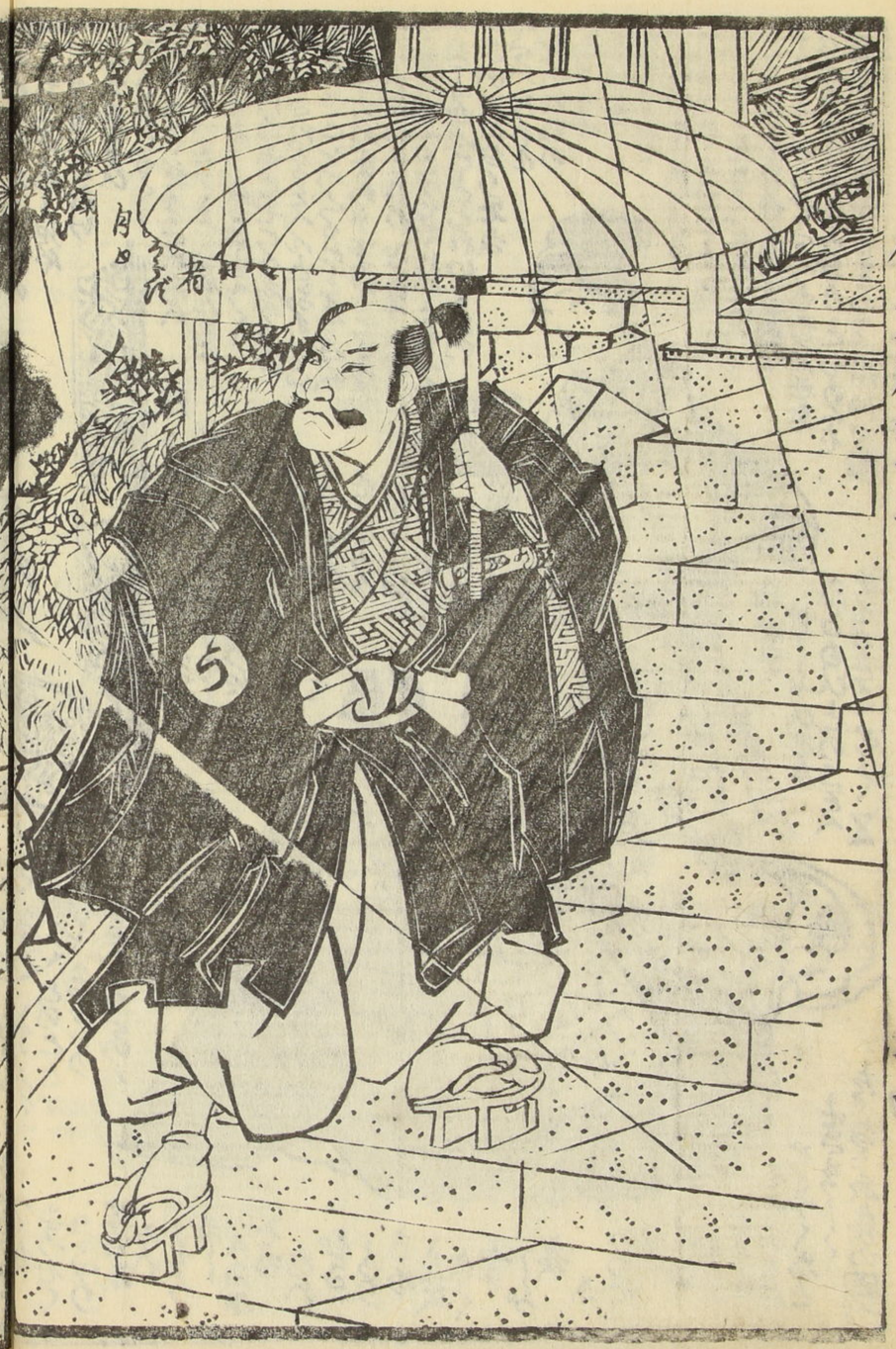
国貞画

錦重堂

寿梅

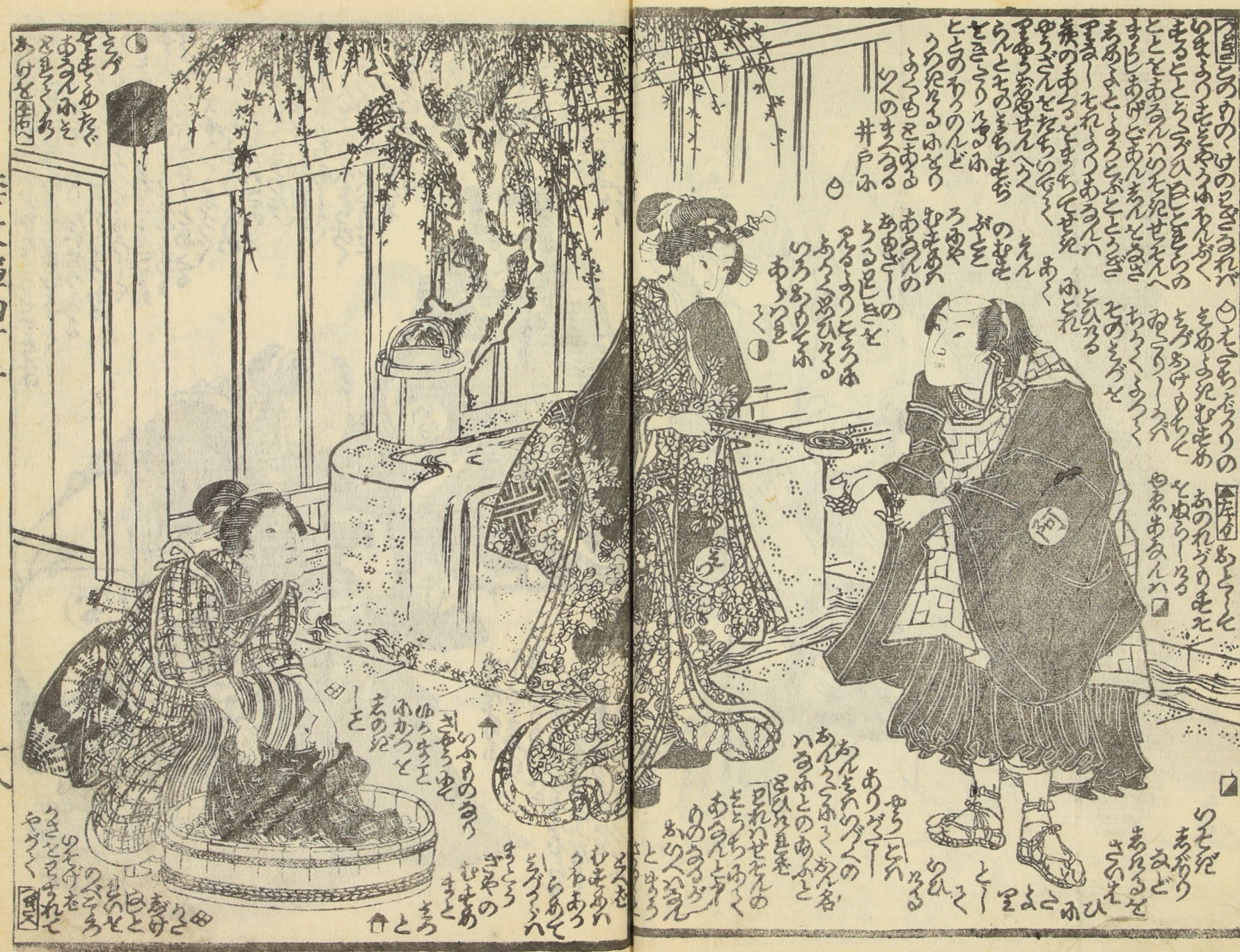
金
提





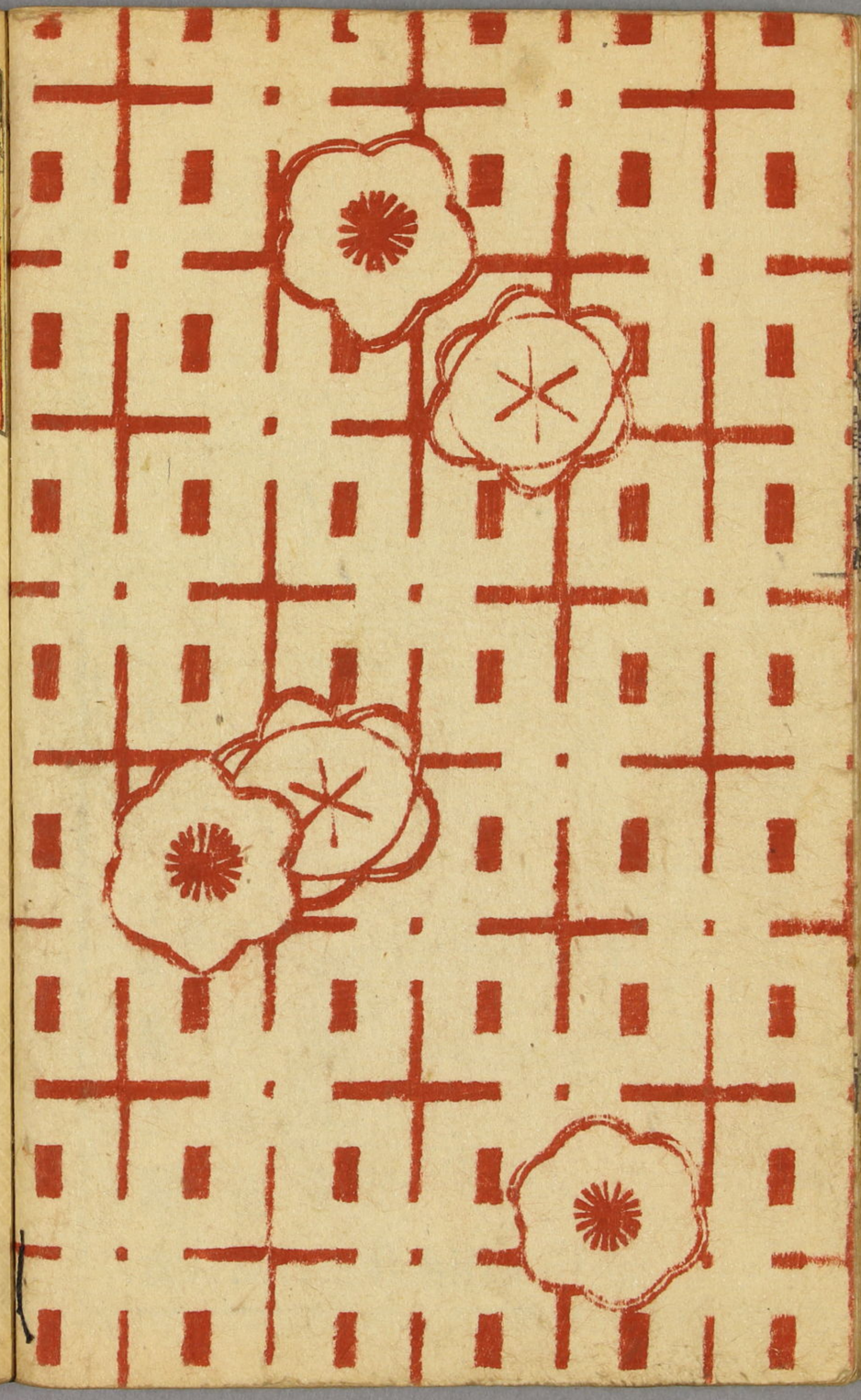
つゞき
いてー
とえろうらんの
ぬんふぢまるせーとう
いりのぢんそうとけー
てまあうけと
ぎさんとせー
とえもとの
いるざのねさく
そりうそさう
そうふーが
今ハ天らん
いたるふ
ゆとそ
うんぢ
妙
阿
乃

ゆーる
とと
まとゆ
めぢうーく
かるさぢく
あるつるぢまれ
さきとぢあのあと
ゆりてもそうのさうさ
とまのまたうぢうのせー
ひげ
とぢゆ
あくず
そるうのむじまく
ぢさうびまやりん天
ふりさうぐりる
妙
ら
ず
能作



俠文庫出世双六	万亭應賀作 陽齋豊國画	
春の手遊 将棋双六	同 歌川貞房画	
男女振合 役替双六	同 一陽齋豊國画	
武家奉公出世双六	同 同	
奥奉公出世双六	同 同	
子宝延命袋	紅摺全一冊 同 歌川芳玉画	
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續	
大寶御江戸圖	極上摺 奉書六枚半續	

万亭應賀作
上



釋迦八相倭文庫四拾六編序

大佛頂首楞嚴經ハ阿難因乞食次經歴淫室遭摩
登伽以沙毘羅呪攝入婬席如來頂光宣說神呪文殊
師利將呪往護ト云云此外小乘部の異釈多ク故茲ハ
塵鄧女經ヲ以ク解畧シ下巻ハ佛説光明童子
因縁經一部四巻乃説ヲ大善權經又雜害藏經
の説等ヲ混雜シク如來乃威德ヲ假名章ニ輝く
法燈ヲなしてこの愚蒙ヲ暗純ヲ明らかに
おさんこゝろをわかりぬ

萬延二年
辛酉初春

万亭應賀誌

火光明童子誕生

本説ハ外道尼乾陀と

嘗ハ提婆と

光明童子因縁經

一部四巻中畧

有長者名曰善賢其妻懐妊問世尊佛曰汝妻胎中決定是男子於人中受天勝福其後外道以毒藥害母子遂

世尊

びんばしゃら王

耆婆

送尸陀林世尊命耆婆從火中得故火光明亦樹提童子共云トあり

重勝王菩薩爲阿難現千神足開其疑謂

大善權經上巻云

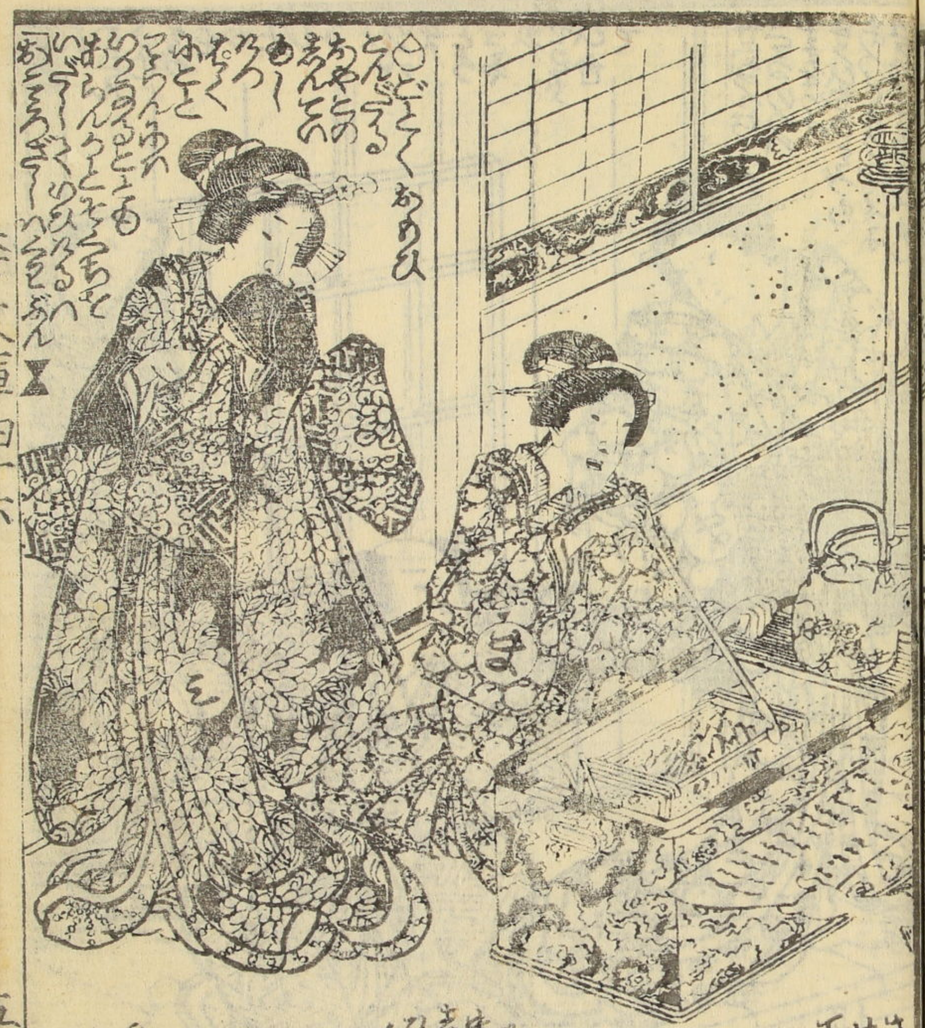
見有閻士名重勝王在他室坐與女人同

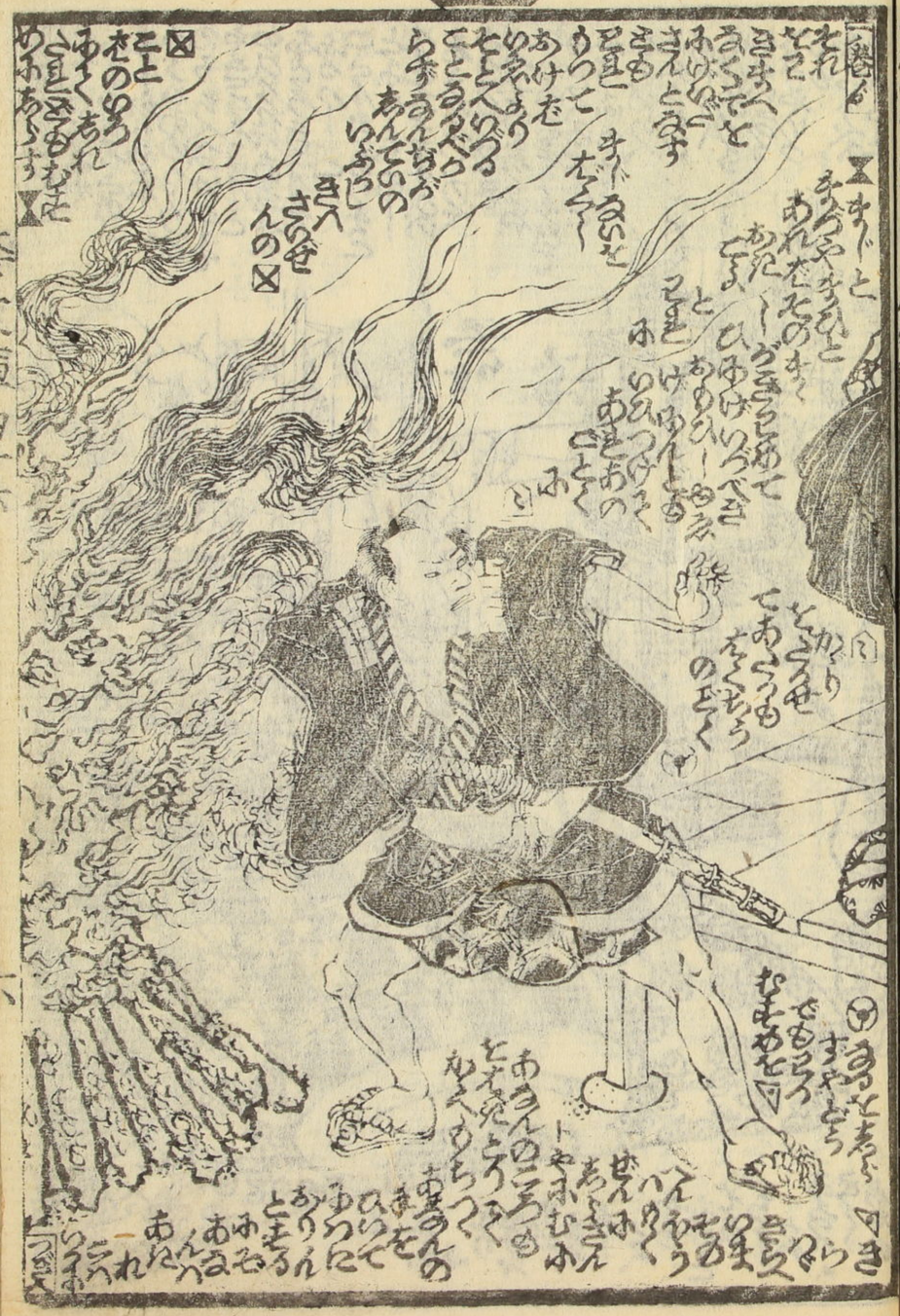
阿難

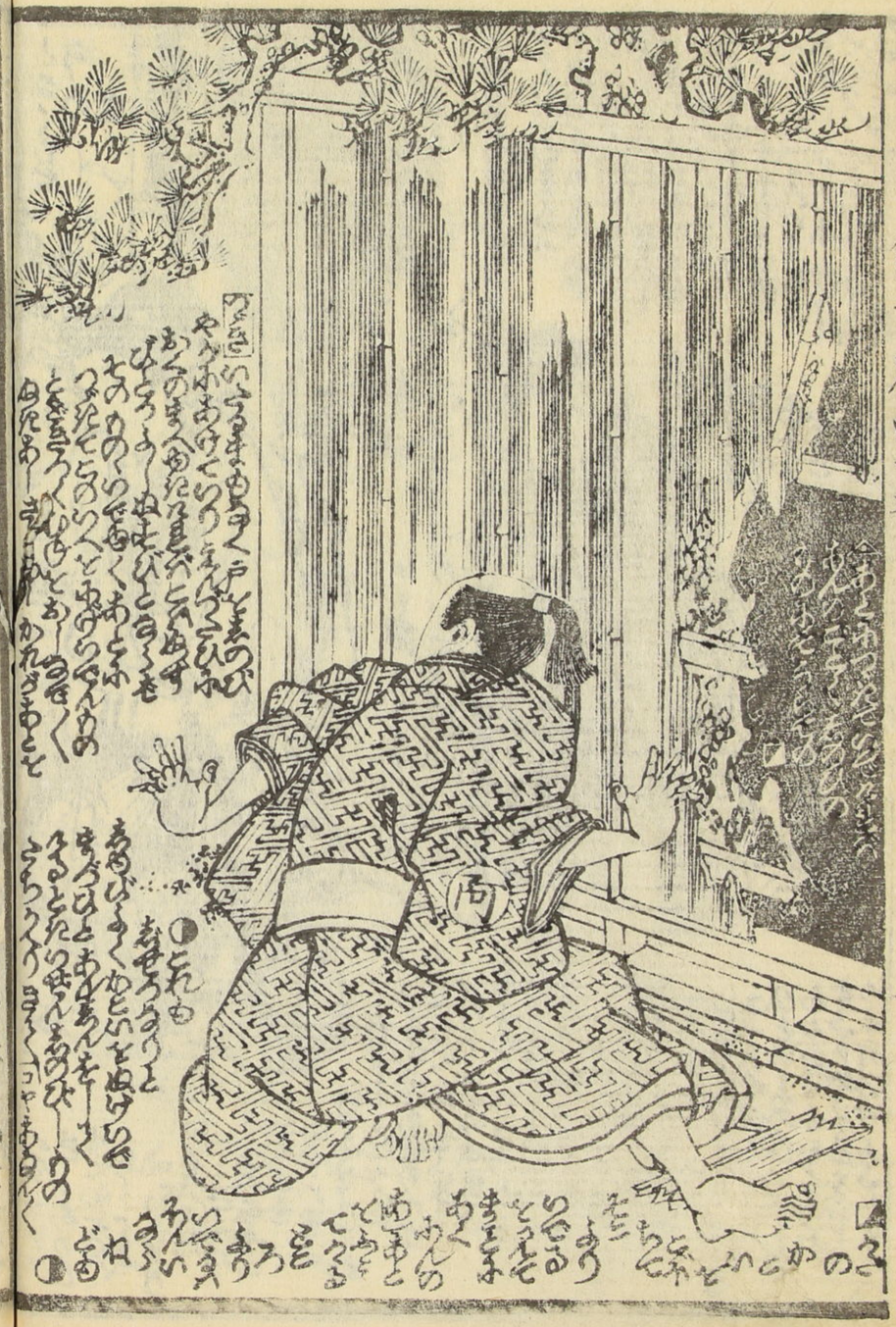
林阿難云犯穢時重勝王即自踊身住於空中去地四丈九尺ト云云

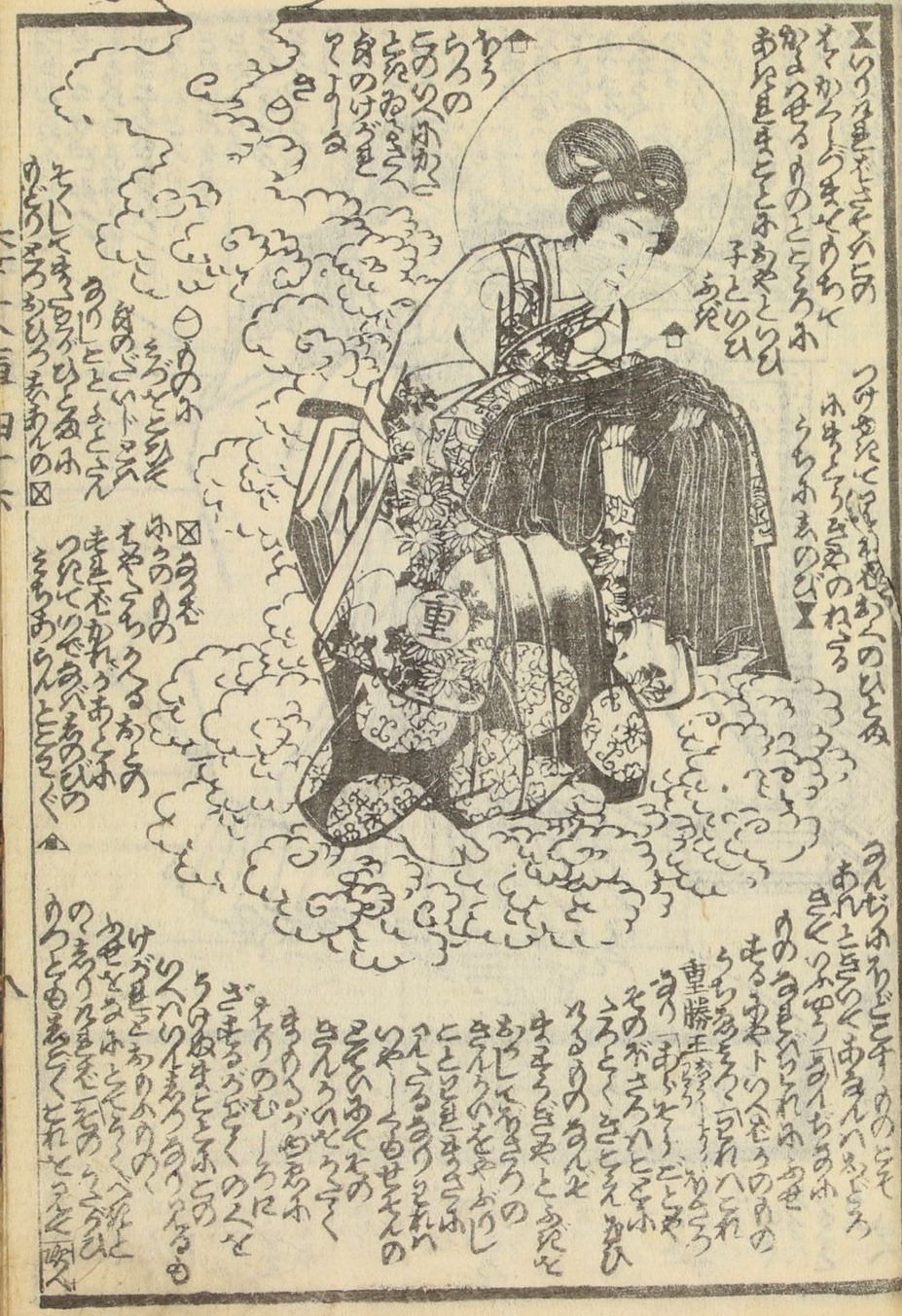
戒因縁經第四曰　文畧

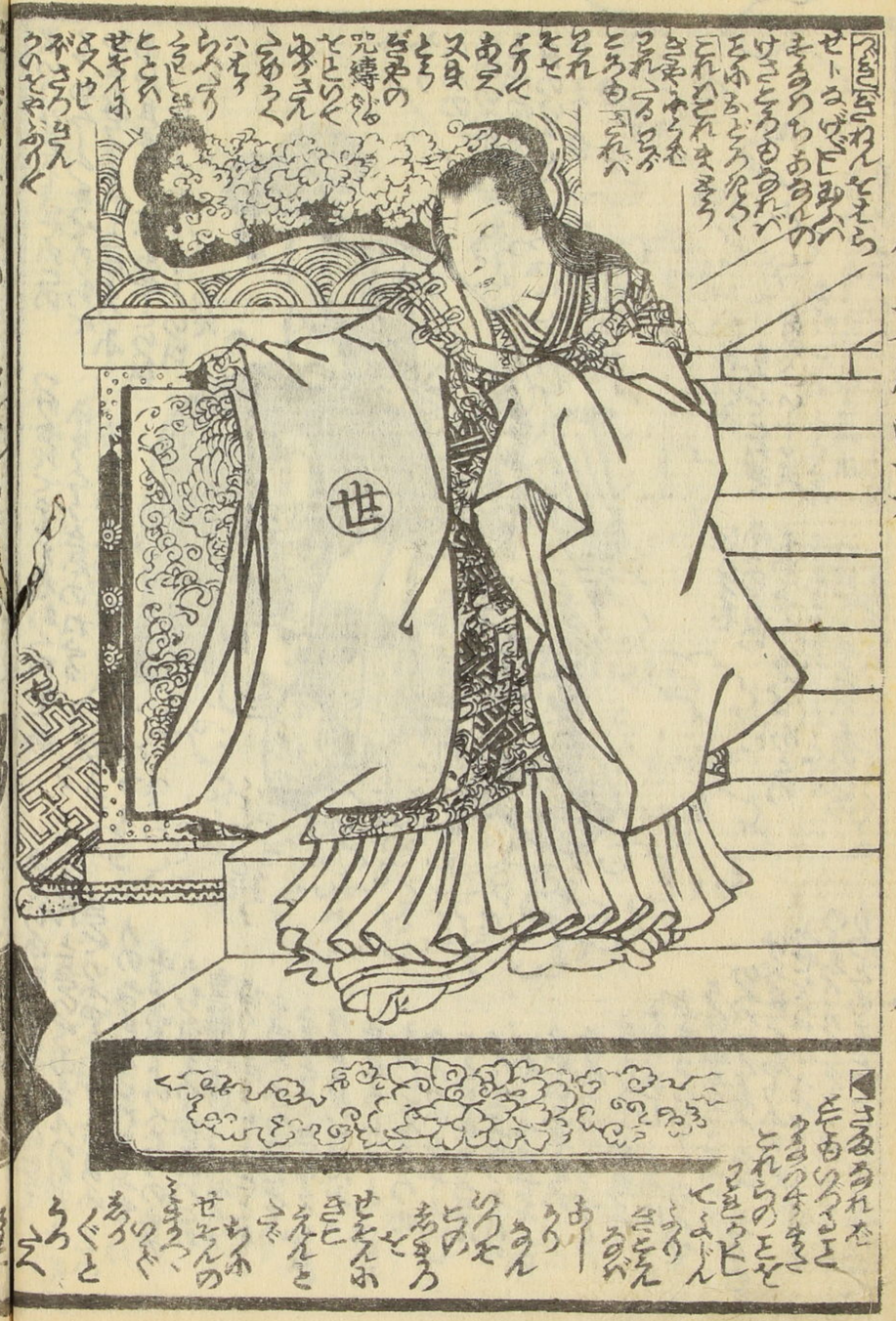
舍利弗大目揵蓮從耆闍崛山入羅閱城分衛道逢暴雨入石室避雨有牧牛女人入先避雨臥失精舍利弗等尋出去見是提婆弟子四儁迦離仍懐惡惡心惡瘡生遂墮地獄











應賀作　國貞画

萬延二年辛酉春新板目録

倭文庫　四十六編　四十七編　四十八編　四十九編　万亭應賀作　一陽齋豊國画

重の井菱染別小紋　編揃　為永春水作　同画

昔語小栗實説　二編　三編　松亭金水作　同画

花山吹百人女郎　初編　二編　柳亭種彦作　同画

浅草みやげ　五編揃十　返舎一九作　同画

常磐津懐中本　初編　二編　三編　四編　小本　弟分あり　拵上あり

金繪艸紙本類　人形町　上州屋重藏版

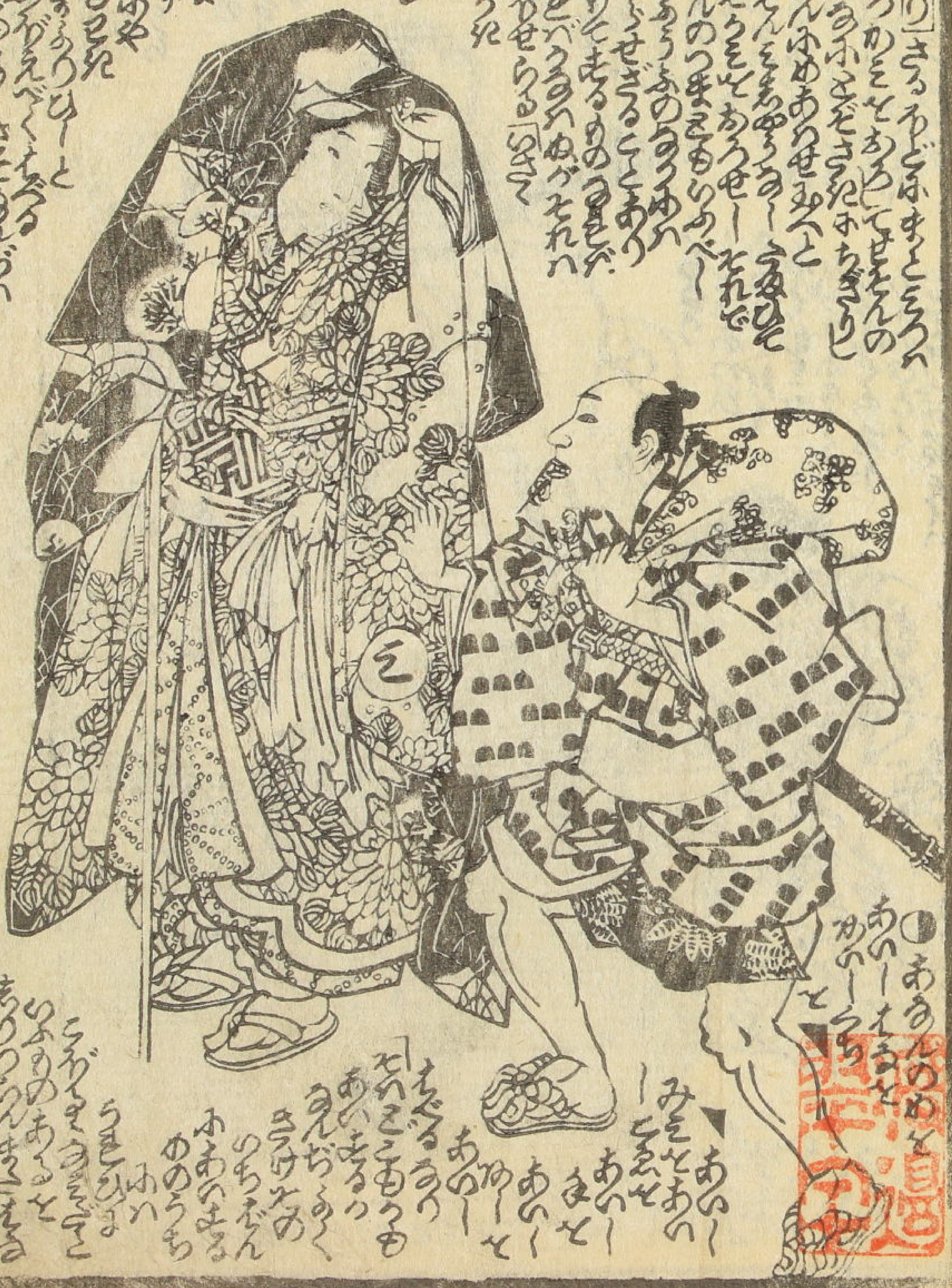
歌川國貞画

倭文庫四拾六編

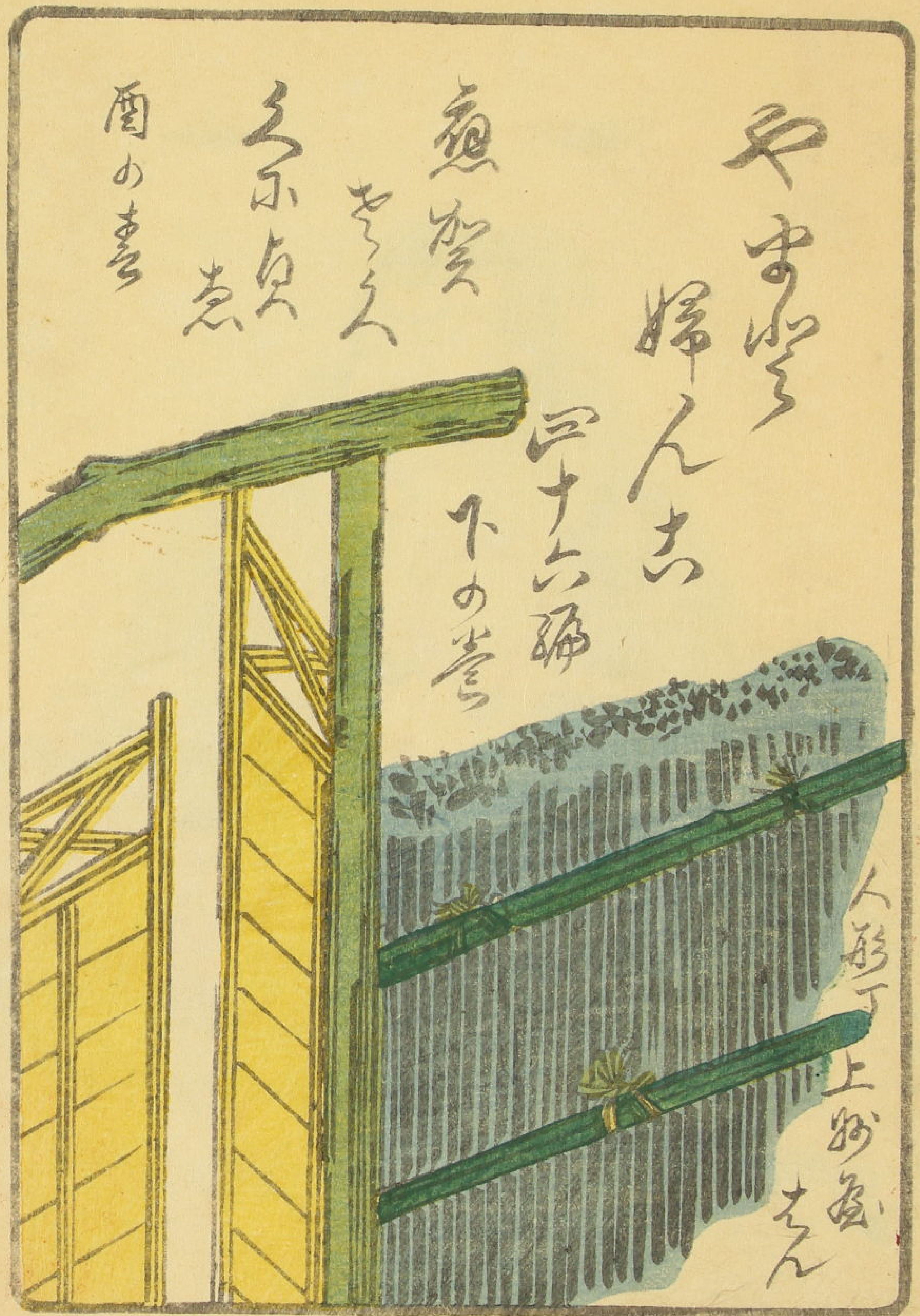
下

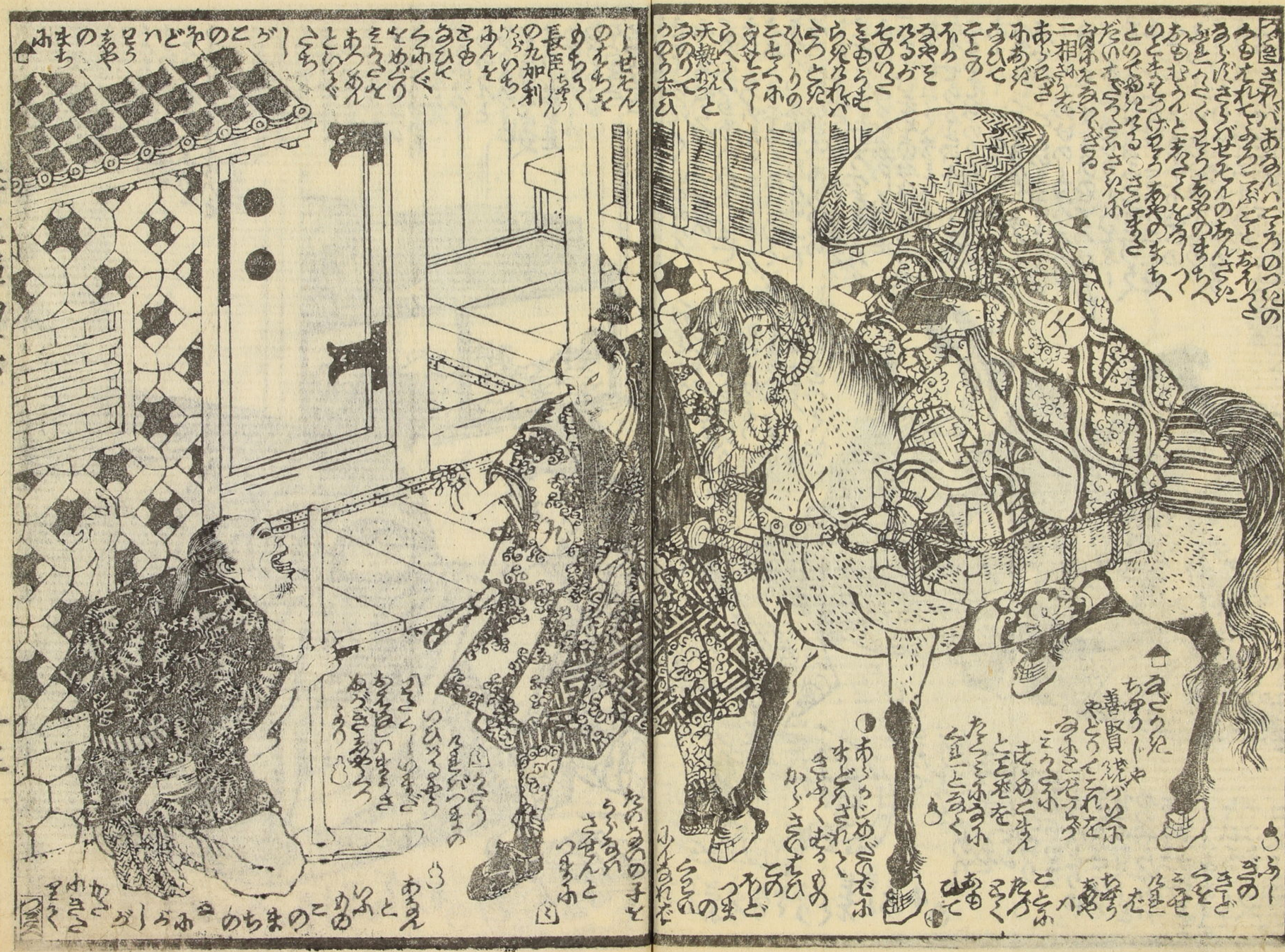
金上州屋

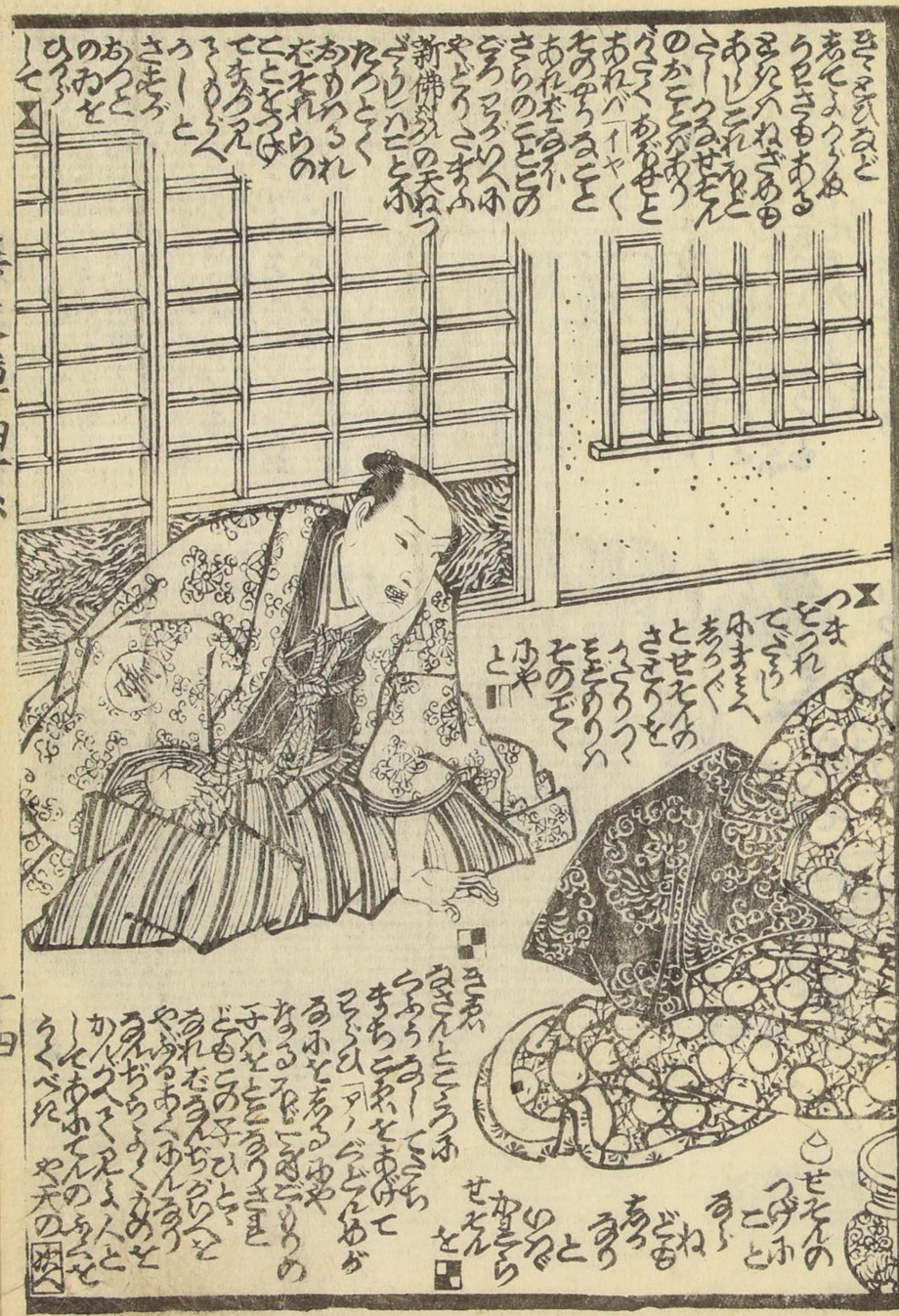
「上の手紙より」さるやどにおくところへ
とどりのうちかくそおもひしてたいせんの
をまへいでおふささえにおちぎりし
ごとくおみんゆめあのせかへと
のぶまでせんそんえゆるうー　うらみて
引くよくしえうきそおろせー　それで
こそおやめんのつまえもりかべし
さりながらあうらふのうすうゆへ
たけんにおもはせざることあり
これふえぞめてまるのつまにて
まぜかくさまにべうろへぬがそれへ
わうほとおもはせらる「ひきて
おぞるあり
うれふさもうれ
「それまつ」ば
まさおや
めんの
つまと
かまいむ
きやうめん
みぞもふま
ねべあうず
それまれいうゆや
「それほどしもとれ
生えねどのまうりひーと
つとめおべかゞえべくもおる
これをきゝぶそもまーさそのおんなの
あがんのいごとをおいもるや「ほど



あゝ
みそとあの
しるせ
あゝし
まぜ
あゝ
ちやうし
あゝし







新佛刻

説法 天熱道師

大佗戸
世

目
舌

應賀作
國貞画

倭文庫出世双六	万亭應賀作 一陽齋豊國画	
春の手遊 将棋双六	同作 歌川貞房画	
男女振合 役替双六	極ありうき 同作 一陽齋豊國画	
武家奉公出世双六	同作 同画	
奥奉公出世双六	同作 同画	
子宝延命袋	紅摺全一冊 同作 歌川芳玉画	
重榮御江戸繪圖	奉書四枚半續	
太寶御江戸圖	極上摺 奉書六枚半續	

本朝茶歌